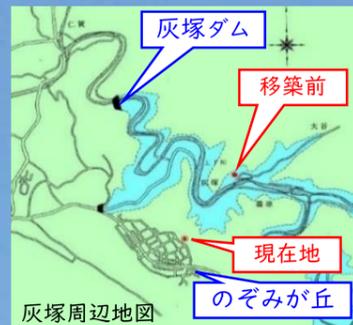


重要文化財 播山家住宅



建造物の概要

構造形式 桁行14.9m、梁間9.1m、入母屋造、茅葺
 名称 旧播山家住宅
 所在地 広島県三次市三良坂町灰塚543番地2
 所有者 三次市
 交通アクセス JR「三良坂駅」から東へ約1.5km
 中国自動車道「三次I.C.」、「庄原I.C.」から車で15分



文化財建造物の保存修理について

文化財建造物は、所在する地域の歴史・文化を物語るものであり、国民の貴重な共有財産です。これらの多くの建造物は、常に風雨や雪などにさらされているために損傷や老朽化を避けられず、貴重な文化財を後世に伝えていくためには、適切な時期に保存修理工事を行う必要があります。保存修理期間中はみなさまに大変なご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。本書は重要文化財 播山家住宅保存修理工事に関する文化庁補助事業の一部として刊行しています。



幡山家住宅とは

幡山家住宅は広島県三次市三良坂町灰塚に所在する農家です。建築年代は、構造手法から18世紀中期の建築と考えられ、昭和53年(1978)1月21日付で重要文化財に指定されました。

建物は南に面し、桁行六間半、梁間三間半の上屋の四周に半間の下屋を巡らせた入母屋造茅葺の住宅です。旧三郡三良坂町灰塚に所在していましたが、灰塚ダム建設により湖底へ水没することとなったため、平成9～11年(1997～1999)に現在の位置へ移築し、その際に住宅建築当初の姿に復原修理をしました。

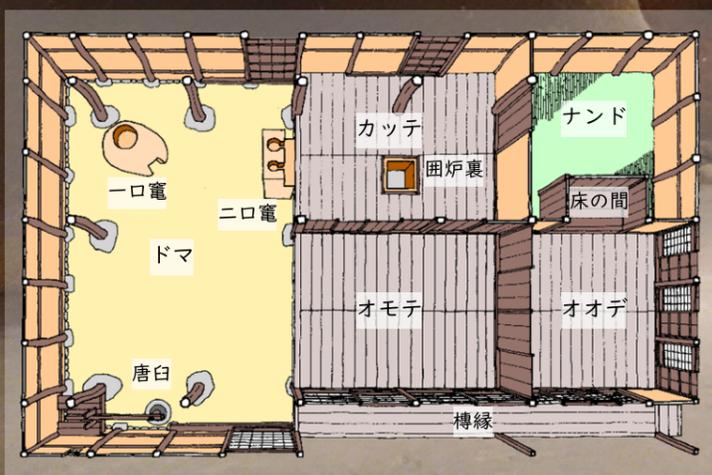
間取りについて

間取りは整形四間取りで、桁行七間半のうち西側下手三間が土間部、東側四間半が床上部です。

土間部は桁行三間、梁間四間半の「ドマ」とし、正面に大戸片引の出入口、背面に背戸を設け、北東の「カッテ」上がり框に接して二口竈、北西に一口竈、南西隅に唐臼を設けています。

床上部は南側を上手から「オオデ」と「オモテ」、北側を上手から「ナンド」と「カッテ」の四室とし、正面の下屋は樽縁です。「オオデ」北面中央は床の間、東側軒下を濡縁とし、「カッテ」のほぼ中央に囲炉裏を設けています。

この住宅は、実年代はさして古くないようですが、構造手法は相当古風で基本的な架構をもっています。とくに、土間から「カッテ」にかけて上屋柱が立ち並ぶ様子はなかなか見応えがあり、改変が少なく、保存もよい建物です。



移築前

重要文化財 幡山家住宅保存修理工事について

前回の移築復原修理事業から20年が経過し、屋根茅葺は全体的に苔が生え、腐るなどの経年による破損が生じるようになり、特に背面・西側面および棟積みが大きく破損しており、比較的破損の少ない正面や東側面でも押銚竹が露出しはじめていました。東妻は小動物による抜け出し等により破損しており、屋根下地は南面東半部において、木製の垂木が折れ、竹製の垂木も潰れて曲り、軒先が大きく垂れ下がっていることから、茅葺屋根の葺替が必要となっていました。また、犬走りの叩きも各所に劣化が見られました。

本事業では建物周囲に仮屋根を設置し、屋根茅葺の全面葺替および、叩きなどの部分修理を行いました。



屋根葺替前



屋根葺替後

発注者	三次市長 福岡 誠志
設計監理者	公益財団法人 文化財建造物保存技術協会
工事請負者	株式会社 砂原組
事業期間	令和2年6月1日から令和3年5月30日
工事の概要	屋根葺替、部分修理 一式 ・建物周囲に軒足場及び仮屋根の建設 ・屋根茅葺の全面葺替 ・野地の締め直し等補修、破損垂木取替 ・犬走り叩き直し